

【1980年3月31日】老人保健医療対策に関する基本方針（諮問）

社会保障制度審議会（総会第355回）

昭和55年3月31日

社会保障制度審議会

会長 大河内 一男 殿

厚生大臣 野呂 恭一

諮 問 書

わが国の老人保健医療対策は、昭和38年に制度化された老人健康診査及び昭和47年に創設された老人医療費支給制度を柱として推進されてきている。しかしながら、老人保健医療対策全体について、医療費保障へ偏重し保健サービスの一貫性が欠如している、老人医療費の負担に不均衡がある、医療資源が十分効率的・合理的に配分・利用されていない等の問題が指摘されており、本格的な高齢化社会の到来を目前に控えて、その基本的見直しを図ることが緊要の課題となっている。

現行の老人医療費支給制度については、発足当時、医療保険制度の改革との関連も論議されたものの、ほとんどの都道府県において医療保険の自己負担分を公費で肩代わりする制度を既に先行させて実施していたことから当面の施策として実施に踏みきった経緯もあるので、本制度の検討に当たっては、この点を配慮することも必要であると考えられる。

よって、今後の高齢化社会に対応する老人保健医療対策に関する基本方針について、貴会の意見を求める。なお、問題の緊急性にかんがみ、できるだけ速やかに御意見を賜わるようお願いする。